

【がん疼痛治療のアルゴリズム】

軽度の痛みのフローチャート

×痛みの包括的評価*1
(痛みの原因の評価、痛みの評価)

*1 軽度の痛み

×原因に応じた対応

- ・がんによる痛み
(外科治療、化学療法、放射線治療)
- ・がん治療による痛み
- ・がんやがん治療と直接関連のない痛み
- ・オンコロジーエマージェンシー
- ・特定の病態による痛み

×腎機能障害・消化性潰瘍・出血傾向

あり

×アセトアミノフェン

なし

×NSAIDs または アセトアミノフェン
×消化性潰瘍の予防薬の投与の検討

効果が不十分な場合に検討すること

- ×オピオイドの開始
- ×痛みが軽度の場合、他のNSAIDsへの変更
- アセトアミノフェンとNSAIDsの併用を検討

*1:中等度以上の痛みの場合には
オピオイドの開始を検討する

中等度以上の痛みのフローチャート

×痛みの包括的評価
(痛みの原因の評価、痛みの評価)

×原因に応じた対応

- ・がんによる痛み
(外科治療、化学療法、放射線治療)
- ・がん治療による痛み
- ・がんやがん治療と直接関連のない痛み
- ・オンコロジーエマージェンシー
- ・特定の病態による痛み

×オピオイドの開始
患者の状態に応じたオピオイドの選択をする
×嘔気・嘔吐、便秘の対策を検討する

トラマドール

コデイン

モルヒネ

オキシコドン

フェンタニル

注:ガイドラインでは「トラマドール」は入っていない

オピオイドにより持続痛が緩和されない場合

×痛みの包括的評価
(痛みの原因の評価、痛みの評価)

×原因に応じた対応

- ・がんによる痛み
(外科治療、化学療法、放射線治療)
- ・がん治療による痛み
- ・がんやがん治療と直接関連のない痛み
- ・オンコロジーエマージェンシー
- ・特定の病態による痛み

×オピオイドによる副作用

あり

×副作用の対処を行い定期投与量を増量
×オピオイドローテーション

なし

×定期投与量の増量

効果が不十分な場合に検討すること

- ×非オピオイド鎮痛薬をオピオイドと併用
- ×オピオイドローテーション
- ×他のオピオイドの追加
- ×投与経路の変更
- ×鎮痛補助薬とオピオイドの併用
- ×神経ブロック

オピオイドの有効性の判定と対応

